

14日 金曜

Ⅱ サムエル



3:1 サウルの家とダビデの家の間には、長く戦いが続いた。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなった。

3:2 ダビデにはヘブロンで子が生まれた。長子はイズレエル人アヒノアムによるアムノン。

3:3 次男はカルメル人ナバルの妻であったアビガイルによるキルアブ。三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの子アブサロム。

3:4 四男はハギテの子アドニヤ。五男はアビタルの子シェファテヤ。

3:5 六男はダビデの妻エグラによるイテレアム。これらの子がヘブロンでダビデに生まれた。

3:6 サウルの家とダビデの家が戦っている間に、アブネルがサウルの家で勢力を増していた。

3:7 サウルには、アヤの娘で、名をリツパという側女がいた。イシュ・ボシェテはアブネルに言った。「あなたはなぜ、私の父の側女と通じたのか。」

3:8 アブネルはイシュ・ボシェテのことは聞くと、激しく怒って言った。「この私がユダの犬のかしらだとでも言うのか。今日、私はあなたの父サウルの家と、その兄弟と友人たちに真実を尽くして、あなたをダビデの手に渡さないでいる。それなのに今日、あなたは、あの女のことで私をとがめるのか。」

3:9 【主】がダビデに誓われたとおりのことを、もし私がダビデのために果たさなかったなら、神がこのアブネルを幾重にも罰せられるように。

3:10 それは、サウルの家から王位を移し、ダビデの王座を、ダンからベエル・シェバに至

るイスラエルとユダの上に堅く立てるということだ。」

3:11 イシュ・ボシェテはアブネルを恐れていたのに、彼に、もはや一言も返すことができなかった。

ダビデは有力者と婚姻関係を持ち、その勢力が拡大していることがわかります。一方、サウル家のイシュボシェテは神を無視して、一部においては王となりましたが、「サウルの家はますます弱くなった。」のです。

サウルの子であるイシュ・ボシェテの家来アブネルも、神を無視する人でした。彼は自分の悪い行いをイシュ・ボシェテから指摘されると、手の平を返したようにダビデの側につくような発言をしました。「主がダビデに誓われたとおりのことを」などと言っていますが、主のことを自分勝手に持ち出しているだけで、目的は自分中心です。

結局主は後に、そのような人間をダビデとミカルの再会に用いられました。その後彼は自分の罪ゆえ復讐されて死ぬことになるのです。

自分中心とそのために人や主の名を利用することの悲惨な結果を忘れてはなりません。主の御心を行いましょう。ダビデのように主の祝福があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

